

【田原市博物館 テーマ展】

令和5年6月10日(土)～7月30日(日)

花鳥画—花と鳥の楽園—

展示室 特別展示室

指定	作者	作品名	制作	材質	形状	備考
市指	わたなべかざん 渡辺崋山	しせんしゆくじゆづ 芝仙祝寿図	天保4(1833)年	絹本着色	掛幅	
	渡辺崋山	あきくさしやうきんず 秋草小禽図	文政元(1818)年	絹本着色	掛幅	
	渡辺崋山	とうかじやくほうず 藤花雀蜂図	天保10(1839)年	絹本着色	掛幅	
	わたなべしょうか 渡辺小華	はくとうず 白頭図	明治17(1884)年	絹本着色	掛幅	
	渡辺小華	かちようず 花鳥図	明治時代	絹本着色	掛幅	
	わたなべじよざん 渡辺如山	ざくろしやくやくはくとうず 石榴芍薬白頭図	天保2(1831)年	紙本淡彩	掛幅	高林コレクション
	渡辺如山	ばいかちようしゆんず 梅華長春図	江戸時代後期	絹本着色	掛幅	明治9年渡辺小華賛 高林コレクション
	おかもとしゅうき 岡本秋暉	はとうぐんきんず 波濤群禽図	安政2(1855)年	絹本着色	掛幅	
	岡本秋暉	ばいかくじやくず 梅花孔雀図	安政6(1859)年	紙本墨画	掛幅	
	岡本秋暉	ふようえんおうず 芙蓉鴛鴦図	江戸時代後期	紙本淡彩	掛幅	高林コレクション
	おだほせん 小田莆川	くじやくず 孔雀図	江戸時代後期	紙本墨画	掛幅	
	小田莆川	こうかぜんけいず 鬩家全慶図	弘化元(1844)年	絹本着色	掛幅	
	小田莆川	かちようず 花鳥図	弘化元(1844)年	絹本着色	掛幅	
	おかだはんこう 岡田半江	かききつ 花卉冊	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	画帖	
	うらかみしゆんきん 浦上春琴	りゅうかじゆたいちようず 榴花寿帯鳥図	江戸時代後期	絹本着色	掛幅	高林コレクション
	つばき にざん 椿 二山	の 野ばら 双鴨図	明治37(1904)年	紙本淡彩	掛幅	
	のぐちゆうこく 野口幽谷	かききつ 花卉冊	明治18(1885)年	紙本淡彩	画帖	
	野口幽谷	すいぼくがじょう 水墨画帖	明治時代	紙本墨画	画帖	
	野口幽谷	わらくどうだんはしゆきちよう 和楽堂談笑珠璣帖	明治時代	紙本墨画淡彩	画帖	白井烟嵩旧蔵品
	野口幽谷	そうがん 双雁	明治時代	絹本着色	屏風	

野口幽谷	けいじょうすいせんか ず 溪上水仙花図	明治26(1893)年	絹本着色	掛幅
野口幽谷	かちょう ず 花鳥図	明治時代	絹本着色	掛幅
まつばやしけいげつ 松林桂月	すいせん 水仙	昭和時代	紙本淡彩	掛幅
たぎきそうらん 田崎草雲	とうがじょう 豆画帖	昭和時代	紙本着色	画帖
こむろすいうん 小室翠雲	しぜんもんくじやく 自然文孔雀	昭和時代	絹本着色	掛幅

市指＝田原市指定文化財 表記のないものは全て当館所蔵

田原市博物館

<作者紹介>

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を習います。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また重要文化財「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

渡辺小華 天保6(1835)年～明治20(1887)年

渡辺華山の次男です。小華が7歳の時に、父である華山が亡くなりました。その後、椿椿山の画塾に入門し、花鳥画の技法を習います。22歳の時、兄の立の死後、渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就きました。明治維新後、内国勸業博覧会への出品や明治宮殿の杉戸絵など制作しました。

渡辺如山 文化13(1816)年～天保8(1837)年

渡辺華山の弟です。学問や書画に優れ、将来を期待されましたが、わずか21歳で亡くなりました。若くして亡くなったため、作品は多く残っていません。14歳から椿椿山に師事し、天保7(1836)年刊行の『江戸現在広益諸家人名録』に掲載され、名を馳せていたことが窺われます。

岡本秋暉 文化4(1807)年～文久2(1862)年

彫金家石黒政美の次男として江戸に生まれました。江戸の町人の出身である母方の姓を継ぎ、小田原藩主大久保家に仕えました。はじめ大西圭斎に師事しました。写実的な作品を描き、華やかな花鳥画を得意とし、「孔雀の秋暉」と称されるほどでした。

小田莆川 文化2(1805)年～弘化3(1846)年

旗本戸川氏に仕える家の末子として生まれました。渡辺華山の弟子となり、兄弟子である椿椿山と深く交友しました。椿山から絵を習ったため、莆川の花鳥画には椿山の影響が見られます。華山が壺

社の獄で捕らえられた際、椿山と共に華山救済のために奔走しました。

松林桂月 明治9(1876)年～昭和38(1963)年

山口県萩市に生まれました。明治26(1893)年に上京し、翌年、椿椿山を師とする野口幽谷の弟子になります。日本美術協会展や文展に出品し続け、南画界の重鎮と言われます。昭和19(1944)年、優秀な美術家へ与えられる皇室技芸員に任命され、昭和33(1958)年には文化勲章を受けました。

野口幽谷 文政8(1825)年～明治31(1898)年

大工の棟梁源四郎の次男として江戸に生まれました。嘉永3(1850)年、椿椿山に師事し、花鳥画を習いました。明治5(1872)年のウィーン万国博覧会や明治10年の第1回内国勸業博覧会に出品し、画技を認められました。明治23年、橋本雅邦らとともに皇室技芸員に任命されました。弟子に椿山の孫である椿二山や松林桂月などがいます。

椿二山 明治6(1874)年～明治40(1907)年?

椿椿山の四男である椿和吉の子息として生まれました。椿椿山の孫にあたります。野口幽谷に絵を習いました。明治27年(1894)、日本美術協会展において「棟花双鶏図」で褒状一等を受章し、その後たびたび受章を重ねました。明治30年6月、号である「二山」を野口幽谷から与えられました。

田崎草雲 文化12(1815)年～明治31(1898)年

江戸神田で生まれました。親戚の金井烏洲に絵を習い、谷文晁や渡辺華山らに私淑しました。39歳の時に足利藩の絵師として仕えました。明治維新後は足利に居住して画業に専念します。内国勸業博覧会などへ出品し、賞牌を受けました。明治23(1890)年には皇室技芸員に任命されました。

小室翠雲 明治7(1874)年～昭和20(1945)年

画家である小室牧三郎の長男として現在の群馬県館林市に生まれました。足利に住む田崎草雲に師事し南画を習いました。日本美術協会展など

に出品し受章を重ね、文展の審査員も務めました。
昭和17(1942)年に南画鑑賞会を設立し『南画鑑賞』を刊行、昭和19年には帝室技芸員に任命されました。

浦上春琴 安永8(1779)年～弘化3(1846)年

鴨方藩士であった浦上玉堂の長男として備前国(現在の岡山県岡山市)に生まれました。父玉堂より絵を習いました。16歳の時、父の脱藩に同行して各地を遍歴し、やがて京都を中心に活動しました。そして京坂画壇に名を連ねるほどの人気作家となりました。

岡田半江 天明2(1782)年～弘化3(1846)年

岡田米山人の長男として大坂に生まれました。幼少の時から父より絵を習いました。父と同じく藤堂藩の下役として仕え、父の没後、家業の米屋を継ぎましたが、文人画家としても活動を続け、田能村竹田や頼山陽、篠崎小竹など交友しました。潤いのある豊かな作品が特徴です。